# 29［短歌］・　ほか

Ａ　夕顔のつくらんと思へども秋待ちがてぬいのちかも 正岡子規

Ｂ　その子にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな 与謝野晶子

Ｃ　おりたちて今朝の寒さを驚きぬ露しとしととの落葉深く

Ｄ　のど赤きふたつにゐての母は死にたまふなり

Ｅ　いのちなき砂のかなしさよ （　　　　　　）

　　さらさらと

　　握れば指のあひだより落つ

Ｆ　いつしかに春の名残となりにけりのたんぽぽの花

Ｇ　は金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ

Ｈ　のこそよけれ霧ながら朝はつめたき水くみにけり

Ｉ　越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく

●語注

夕顔＝ウリ科の一年生草。夏に白色の花をつけ、果実は食用となる。

玄鳥＝つばめ。

屋梁＝柱の上に水平にはり渡し、屋根を支える材木。「」

白埴＝陶器などを作る粘土質の白い土。

問１　Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｈの歌で句切れがあるものは何句切れか。また、句切れのないものには×を付けよ。2点×6

Ｂ〔　　　　　〕 Ｃ〔　　　　　〕 Ｄ〔　　　　　〕

Ｅ〔　　　　　〕 Ｆ〔　　　　　〕 Ｈ〔　　　　　〕

問２　Ｅの歌は歌集『一握の砂』に収められている歌である。この歌の作者名を漢字で答えよ。3点

〔　　　　　　　　　　〕

問３　を抜き出し、それがどの言葉にかかっていくか答えよ。3点

枕詞〔　　　　　　　　　　〕 言葉〔　　　　　　　　　　〕

問４　Ａの歌について、「我」の思いとして、最も適当なものを次から選べ。3点

ア　夕顔の実のなる秋が早く来てほしい、と祈るような気持ちでいる。

イ　夕顔の実のなる秋の来るのが、少しでも遅れたらいいのにと思っている。

ウ　夕顔の実のなる秋までは、自分はとても生きてはいられないだろうと思っている。

エ　夕顔の実のなる秋が、待ち遠しくてならないと考えている。

オ　夕顔の実のなる秋が来れば、自分は死んでしまうだろうと絶望的になっている。

〔　　　〕

問５　一首の歌の中で一番大きく変化しているところを考えていくと、その短歌の内容を深く理解することができる。Ｆの歌について、一番大きく変化しているのはどこからか、その最初の四字を答えよ。また、その理由を形式上と内容上においてそれぞれ答えよ。3点＋3点＋5点

〔　　　　　　　　〕

形式〔　　　　　　　　　　〕

内容〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　隠喩表現を用いている短歌を一つ選び、隠喩表現を抜き出せ。3点

短歌〔　　　〕　隠喩〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問７　擬態語が用いられている短歌を三つ選び、擬態語をそれぞれ抜き出せ。3点

短歌〔　　　〕　　　〔　　　〕　　　〔　　　〕

語　〔　　　　　　〕〔　　　　　　〕〔　　　　　　〕

問８　次の言葉にあてはまる内容を持つ歌をそれぞれ選べ。2点×6

ア　盛夏　　　イ　青春　　　ウ　死の予感

エ　惜春　　　オ　晩秋　　　カ　漂泊

ア〔　　　〕　イ〔　　　〕　ウ〔　　　〕　エ〔　　　〕　オ〔　　　〕　カ〔　　　〕

【解答】

問１　Ｂ＝初句切れ　Ｃ＝三句切れ　Ｄ＝×

　　　Ｅ＝二句切れ　Ｆ＝三句切れ　Ｈ＝二句切れ

問２　石川啄木

問３　足乳根の・母

問４　ウ

問５　昆布干場・形式＝三句切れ

　　　　　　　　内容＝上の句は心情、下の句は風景。

問６　Ｇ・金の油

問７　Ｃ・しとしと（と）　Ｅ・さらさら（と）　Ｇ・ゆらり（と）

問８　ア＝Ｇ　イ＝Ｂ　ウ＝Ａ　エ＝Ｆ　オ＝Ｃ　カ＝Ｉ

■覚えておきたい語句

□Ａ　～がてに（ぬ）………（動詞について）～しがたく。

□Ｂ　おごり…………………得意になって、高ぶること。

【歌の大意】

Ａ＝夕顔の棚を作ろうと思うけれど、その夕顔の実のなる秋まで待つことができない私の命であるよ。

Ｂ＝二十歳の豊かな黒髪をもつ青春の美しいことよ。

Ｃ＝庭に降り立って今朝の寒さに驚いたことだ。露にしっとりとれた柿の落ち葉が重なって落ちている。

Ｄ＝のどの赤いつばめが二羽屋梁にとまっていて、私の母は死んでいかれる。

Ｅ＝いのちのない砂の悲しさよ。握ると、さらさらと指の間から落ちてゆく。

Ｆ＝いつしか春は終わりになってしまった。昆布干場のたんぽぽの花だけが春の名残をとどめている。

Ｇ＝向日葵は金の油のような陽光を浴びてゆらりと高く咲いている。

Ｈ＝白磁の瓶はすばらしい。その瓶で、霧の立ちこめている中、朝には冷たい水をんだことだ。

Ｉ＝たくさんの山河を越えて行くならば、寂しさのなくなる国があるに違いない。そう思いながら、今日も旅を続けている。

《作者》

□正岡子規　　近代俳句・短歌の創始者。対象をありのままに写す「写生」を提唱。著書に『歌よみに与ふる書』など。

□与謝野晶子　明治の浪漫的詩歌の中心「明星派」をリードする。第一歌集『みだれ髪』。与謝野の妻。

□伊藤左千夫　正岡子規に傾倒し、短歌会に参加。歌誌「」、のち「アララギ」を創刊。小説『野菊の墓』も有名。

□斎藤茂吉　　伊藤左千夫に師事。アララギ派の代表歌人。代表歌集に『』『あらたま』『白き山』など。

□石川啄木　　短歌を三行分かち書きで表記。歌集に『の砂』『悲しき』。

□北原白秋　　唯美主義・耽美主義。雑誌「スバル」へ参加。第一歌集『の花』。詩集に『』『思ひ出』がある。

□前田夕暮　　に師事。歌集に『収穫』『生くる日』『水源地帯』など。

□長塚　節　　正岡子規に師事。「アララギ」の同人となる。写生の歌集に『初秋の歌』『の如く』など。小説『土』も有名。

□若山牧水　　自然主義の歌人。歌集に『海の声』『別離』『路上』など。

【読みのセオリー】

★短歌も構造を考える

　短歌も「起承転結」でその構造を考えることは有効。詩に比べてより短い短歌では、「転」はどこかを考えるだけでも十分である。「転」で何から何へと変化しているのか？　を考えることで歌の内容が見えてくる。

■読みのセオリー［実践］短歌も構造を考える

問１　「転」とは変化。変化している理由を、形式と内容の両面から考えよう。

Ｆの歌は、［１　　］句切れ

　　　↓したがって、

形式上の変化は、

［２　　　　　　　］から。

内容の上では、

前半が［３　　　　］、後半が［４　　　　］を表す。

〔解答〕　１三　２昆布干場　３心情　４風景

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問１　Ａ〜Ｉの歌の中で、二句切れの歌をすべて記号で答えよ。

　［答］　Ｅ・Ｈ

＊差し替え

問２　Ａの歌の作者名を答えよ。（作者名を空欄に）

　［答］　正岡子規